

平成26年第1回臨時会が開催されました。

LRT(次世代型路面電車)導入計画の賛否に関する住民投票条例の制定を否決

臨時会の日程と審議の状況

1月24日 開会

・会期を1月24日から29日までの6日間と決定した。

・宇都宮市のLRT(次世代型路面電車)導入計画の賛否に関する住民投票条例の制定の議案が上程され、市長が意見書を付けて提案理由の説明をした。

・条例制定請求代表者が意見陳述を行う人数等について決定した。

1月27日

本会議(意見陳述・質疑)

・条例制定請求代表者である上田憲一氏より意見陳述があった。

・7名の議員が、議案について質疑を行った。

総務常任委員会

・条例制定請求代表者の2名を参考人として招致し、質疑を行った。また、執行部に対しても質疑を行った。

1月28日 総務常任委員会

・委員間で討議を行い、採決した。

1月29日 閉会

・総務常任委員会委員長より委員会での審査結果について報告を受けた後、各会派から討論が行われ、採決の結果、賛成少数により否決された。

市長の意見

条例制定請求に係る3万人あまりの署名があったことに対しては、真摯に受け止めている。

しかし、LRT事業については、持続的に発展する将来のまちづくりを見据え、国や県、周辺市町、有識者や関係機関との協議を経て、段階的に丁寧な市民への説明などに取り組んできたところである。さらに、地方公

請求代表者の意見

市はLRT導入ありきの立場から、デメリットや矛盾に触れず、一方的に推進してきた。

私たちは、駅前大通りに危険を伴う路面電車を敷設する事業を阻止すべく結成した団体であるが、11月から署名活動に取り組み、必要数の4倍近い3万人以上の署名簿を提出でき、市民の住民投票での決着をとる思いを

共同体の長及び議会の議員を住民が直接選挙する二元代表制の下、これまで、議会と執行部の間で長年にわたり議論を重ねながら進めてきたものであり、LRTに係る予算についても、議会の承認を得てきたことから、住民投票を行うことなく、議会と執行部の間で十分に議論し、進めていくことが適切であると考えている。

今後とも、あらゆる機会を通じて、市民に情報を提供し、市民理解の促進に努めるとともに、議会の意見も十分に聞きながら、LRT導入に全力で取り組む。

強く感じた。署名集めでは、東西大通りの幹線道路の車線減少による交通渋滞や、路線バスからの乗換えが不便で耐え難いなどの声があった。

市議会では20年12月に自治基本条例を全会一致で可決しており、その第15条で市政にかかる特に重要な事項において事案ごとに住民投票を実施し、その結果を尊重しなければならないとしている。LRT事業は単なる主要事業ではなく宇都宮市の交通体系を基本から変えてしまう重要な事案である。市民の意志、是非を確認できるように住民投票を活用してほしい。

市議会では20年12月に自治基本条例を全会一致で可決しており、その第15条で市政にかかる特に重要な事項において事案ごとに住民投票を実施し、その結果を尊重しなければならないとしている。LRT事業は単なる主要事業ではなく宇都宮市の交通体系を基本から変えてしまう重要な事案である。市民の意志、是非を確認できるように住民投票を活用してほしい。



▲条例制定請求代表者による意見陳述の様子



▲市長による提案理由説明の様子

審議結果

賛成は「○」、反対は「×」と表記しています。各会派の所属議員や議員個人の賛否については、ホームページで公開していますのでぜひご覧ください。

宇都宮市のLRT(次世代型路面電車)導入計画の賛否に関する住民投票条例の制定

| 結果 | 会派の態度 | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|------|-----|----|-----|----|----|----|------|
| | 自民党 | 自民クラブ | 市民連合 | 公明党 | 統一 | 共産党 | 改革 | 環境 | 未来 | びじょん |
| 原案否決 | × | × | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | ○ | × |

◎会派略称と所属人数

自民党：自由民主党議員会(11人)、自民クラブ：自民クラブ(10人)、市民連合：市民連合(6人)、公明党：公明党議員会(6人)
統一：統一会派フォーラム・みんな(5人)、共産党：日本共産党(2人)、改革：議会改革クラブ(1人)
環境：環境と健康を守る会(1人)、未来：未来への架け橋(1人)、びじょん：For シングルびじょん(1人)